

宇都宮市立明保小学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 | 取組に関わる調査結果 |
|-----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 基礎基本の定着 | 宮っ子学カステップアップシートやAI型学習ドリルの活用を年間通して実施している。 家庭学習強化週間の設定や家庭学習啓発資料の配付を通して、家庭との連携を図り、主体的に家庭学習に取り組めるようにしている。 少人数指導や習熟度別学習など、学習形態を工夫することで、個に応じた指導を行っている。 | 6年生では、知識・技能、思考・判断・表現に関わる問題における平均正答率は、理科では市を上回り、それ以外は下回っている。算数の知識・技能が大きく下回っている。 「宿題はきちんとやっている。」「宿題をきちんとやり、期限までに提出している。」は、2年生、5年生、6年生で下回っている。「ふだん、学校の授業以外に、1日どれくらい学習していますか。」に対し、本校の目標とする時間に達していない児童は3年生、4年生、6年生で市を下回っている。 少人数指導や習熟度別学習を実施している5・6年生の算数に関して、「好きですか。」に肯定的に回答した児童の割合は、5年生では、市より下回っているが、6年生は上回っている。 |
| 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の工夫・改善 | 授業の導入では課題を明確にし、展開では、個別に考える時間を確保し、ペアやグループで課題解決を行い、終末では学習のまとめや振り返りを行うことで、学習内容の定着を図っている。 | 「グループなどでの話し合いに、自分から進んで参加していますか。」に肯定的に回答した児童の割合は、3年生で市の平均よりも上回っているが、それ以外は下回っている。「自分の考えを、理由をあげながら話すことができる。」に肯定的に回答した児童の割合は、4年生、6年生では市の平均よりも上回っている。 |

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・県の調査において、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい。」という設問に肯定的に回答した児童の割合が、4年生は64.7%、5年生は68.8%いる。様々な機会を捉えて、自分の考えを端的に記述する活動や、複数の資料から目的に合った情報を抜き出してまとめたり、メモを基に文章を書いたりする活動を取り入れていく。また、自分の考えを書く際に、字数や使用しなければならない語句の条件を段階的に増やすなどの提示の仕方を工夫し、条件に合わせ、自分の考えをまとめて記述する力を養っていくようにする。さらに、児童に寄り添いながら思考の過程で励ますことで自信をもたせたり、友達のよい文章を提示して参考にさせたりし、諦めずに挑戦する意欲を高めるようにする。

・市の調査において、「学校の授業時間以外に、ふだん（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。」については、本校の目標とする時間に達していない児童の割合が、4年生は58.1%、5年生は約30%いる。家庭学習では、宿題をきちんとやる習慣が身に付いている児童が多いが、自主学習については時間や質に個人差が見られる。次年度は、家庭学習に継続的に取り組むことができるよう、「家庭学習の進め方」等を活用しながら計画の立て方や内容についての指導を定期的にし、また、「家庭学習カード」に取組内容や学年に応じた目標時間を記録させたりする。また、家庭との連携を図れるよう、啓発資料等を活用して保護者の意識を高められるようにする。また、関心意欲を高める授業を工夫し、家庭学習への学びにつながるよう働きかけをする。

・市の調査において、「グループなどでの話し合いに、自分から進んで参加していますか。」に肯定的に回答した児童の割合は、ほとんどの学年で市の平均よりも下回っているが、「自分の考えを、理由をあげながら話すことができる。」に肯定的に回答した児童の割合は、4年生で71.6%、6年生で76.1%で市の平均よりも上回っている。授業における学習形態の工夫や話し合いの場の設定により、自分の考えを進んで発表し、友達と考えを練り合いながら思考を深めていこうとする態度は育ってきている。次年度は、じっくり考え、しっかり書き・進んで話し合う授業の充実を図り、表現力の育成に努める。

・市の調査において、「調べたことをパソコンを使ってまとめることができる。」に肯定的に回答した児童の割合は、4、5、6年生は市を上回っている。次年度は、発達に応じたルールをしっかりと指導しながら、自分の考えをまとめ、発表・表現する場面や児童同士が話し合う場面等で一人一台端末を有効活用し、情報活用能力を高めていく。